

問一

次の文章は、一年生の児童が書いた日記です。かなづかいについて、見直すことにしました。間違っているかなづかいの言葉を十個探して、線を引き、線の右側に正しく直して書きましょう。

(例) ゾウが えさを 食べる。

七月十五日 水よう日

たいいく

一じかん目は たいいくでした。二じかん目は ぼくの すきな

こくごでした。ぼくは、にっちょくなので、

きをつけ

「きようつけ。」

ごうれい

おおかみ

おうさま

と ごおれいを かけました。先生が、「おうかみのおおさま」と

いう本を よんでくれました。かんどうてきな おはなしだった

じつと

ので、ぼくは、ちつと 耳をかたおけていました。きようしつは、

ふんいき

ぜんいん

あたたかな ふんいきになりました。そして、そのあと、せい

きづいた

んで 音どくをしました。きずいたら、ゆうきくんが、すごく お

おきな こえで よんでいました。先生が、

「あしたは、おはなしの つづきを よみましょう。」

いって

と ゆっていました。とても たのしみです。

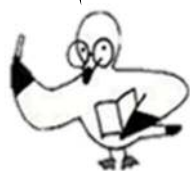
日直当番では、「気をつけ」と正しく言うことができるかな。
普段の学校生活の中でも、意識して使ってみよう。



「読んでみよう」

○ 古典では、現代のかなづかいと異なった表し方をします。かなづかいの違いに気を
つけながら、次の古典の文章「いろは歌」を読んでみましょう。

「いろは歌」は、昔のかな文字を一回ずつ使って作られているよ。
現在の五十音表（あいうえお表）みたいだね。



昔のかなづかい

いろはにほへと
ちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うゐのおくやま
けふこえて
あさきゆめみし
ゑひもせす

現代の読み方

色はにおえど
散りぬるを
我が世たれぞ
常ならん
有為の奥山
今日超えて
浅き夢見じ
酔いもせず

「現代の読み方」を繰り返し
読んで、親しもう。
暗唱できたらずい。



【現代語訳】

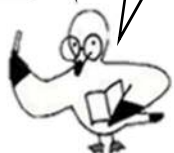
色美しく咲き誇っている花も
いつかは散ってしまふ。
私たちがこの世の誰が
永久に変わらないことがあるだろうか。
いるいるなことがある人生の深い山を
今日も超えていくのだが
浅い夢など見ることはしない。
心を惑わされもしない。

「やってみよう」

○ 次のように、仲間の言葉を集めてみましょう。

学校図書館にある図鑑や百科事典、インターネットを使って調べてみよう。いろいろな言葉が見つかって楽しいよ。

書くときは習った漢字を使おうね。



鳥	国名の漢字一文字表記	月の異名	二十四節気	雲	家族や親せき	天気	季節	色	教科
の仲間	の仲間	の仲間	の仲間	の仲間	の仲間	の仲間	の仲間	の仲間	の仲間
(例) 啄木鳥 (きつつき) 烏 (カラス)	米 (アメリカ) 仏 (フランス) 露 (ロシア)	睦月 (二月) 如月 (二月)	立春 秋分	入道雲 うろこ雲 いわし雲	おじ おば 祖父 祖母	(例) 晴れ くもり 雨 小春日和	(例) 春 夏 秋 冬	(例) 赤 青 黄色 緑	(例) 国語 算数 社会

最後の□は自分で言葉を決めよう。

